

平成 23 年 度 学 校 総 合 評 価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、5つの重点項目のうち、学習活動の一部を除いて、ほぼ当初の目的は達成できたと言える。検定の上位級取得は基礎学力の向上に一定の成果を上げているが、学習習慣を強化することには必ずしもつながっていないことや、学力の向上と高校生活の充実のためには、落ち着いた雰囲気づくりが大切であることが課題として残った。

他の項目については、今回の課題に対する達成度を今後も維持するとともに、さらに新たな課題を明らかにし、解決に向けてより具体的な取り組みが必要であると考えます。このことから、今年度の総合評価は「B」とした。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 生徒の学習実態を把握し、各自が抱える学習課題を明らかにし、意欲的・継続的に取り組ませるための個別指導を強化する。
- (2) 授業改善を図るための調査を継続するほか、互見授業期間中は多くの保護者や外部の方が参観しやすいように日程などを調整する。
- (3) 常識ある社会人を育成するため、時間を守ること、あいさつをすること、ボランティア意識を高めるような活動を積極的に取り入れる。
- (4) 望ましい職業観の育成を図るため、計画的にキャリア教育の推進に取り組むとともに、進路内定後の指導をより充実させる。
- (5) 学校支援関係機関との連携を深め、生徒の学校生活がより円滑になり、かつ、将来の進路決定につながるような支援を継続的に行う。
- (6) 専門教科である農業関係の資格取得のための指導の充実を図る。

平成23年度 アクションプランー1ー																		
重点項目	学習活動																	
重点課題	基礎学力の向上と授業改善																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎となる「読む力・書く力・計算する力」が必ずしも十分ではない生徒が多い。 ・学力や学習意欲に差が広がりつつある。 ・目標をもって計画的・継続的に学習する習慣が身に付いていない生徒が多い。 ・計算力は個人差が大きく家庭学習では十分に学力の向上が図りにくい生徒が多い。 																	
達成目標	①漢検・硬筆書写検定のいずれかで上位の級を取得した生徒の割合 ＊1・2年次を対象とする。 75 %																	
	②生徒の授業への満足度 80 %																	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定（年2回）を1、2年次全員・硬筆書写検定（年1回）を1年次全員が受検する。 ・検定合格に向け授業や家庭で計画的に学習させる。 ・長期休業中に課題図書を出し、読書や感想文を書く機会を増やす。 ・生徒に授業や学習についてのアンケートを実施し、その結果を授業に生かす。 ・全教員の互見授業を通して学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。 ・参観した授業の感想や意見を授業担当者に伝え、授業に生かす。 ・互見授業期間は保護者に授業を公開する。 																	
達 成 度	上位級取得率 66.7 %																	
具体的な取組状況	(1)漢検(年2回)・硬筆書写検定(年1回)のいずれかで上位の級を取得した生徒の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>上位級取得率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>77.8 %</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>56.7 %</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>66.7 %</td> </tr> </tbody> </table> (前年度総合77.2%) (2)校内読書感想文コンクール実施 全校生徒参加 (1)互見授業 第1回 6/13(月)～17(金) ・参観者 15名 52時間 ・保護者 20名 (PTA行事開催) 第2回 11/14(月)～18(金) ・参観者 15名 48時間 ・中学生 2名 (保護者1、生徒1) ・中学校教員1名 (2)学習や授業に関するアンケート実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>4/26</th> <th>1/10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習への意欲的な取り組み度</td> <td>75%</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>授業への満足度</td> <td>90%</td> <td>82%</td> </tr> </tbody> </table>	年次	上位級取得率	1	77.8 %	2	56.7 %	総合	66.7 %	項 目	4/26	1/10	学習への意欲的な取り組み度	75%	74%	授業への満足度	90%	82%
年次	上位級取得率																	
1	77.8 %																	
2	56.7 %																	
総合	66.7 %																	
項 目	4/26	1/10																
学習への意欲的な取り組み度	75%	74%																
授業への満足度	90%	82%																
評 価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td>検定取得は基礎学力の向上に一定の成果を上げているが、計画的・継続的に学習意欲を向上させることに必ずしもつながっていない。2年次においては目標を達成することができなかったためDとした。</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td>落ち着いた授業環境である。年度当初は、授業に対する満足度は高いが、後半になると低下の傾向となった。指導方法の具体的工夫や保護者の授業参観者数等の課題が残ったが、目標を達成したのでAとした。</td> </tr> </table>	D	検定取得は基礎学力の向上に一定の成果を上げているが、計画的・継続的に学習意欲を向上させることに必ずしもつながっていない。2年次においては目標を達成することができなかったためDとした。	A	落ち着いた授業環境である。年度当初は、授業に対する満足度は高いが、後半になると低下の傾向となった。指導方法の具体的工夫や保護者の授業参観者数等の課題が残ったが、目標を達成したのでAとした。													
D	検定取得は基礎学力の向上に一定の成果を上げているが、計画的・継続的に学習意欲を向上させることに必ずしもつながっていない。2年次においては目標を達成することができなかったためDとした。	A	落ち着いた授業環境である。年度当初は、授業に対する満足度は高いが、後半になると低下の傾向となった。指導方法の具体的工夫や保護者の授業参観者数等の課題が残ったが、目標を達成したのでAとした。															
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ上位級取得率が低くなったとのことだが、受検者を増やす取り組みの次は、受けるための準備意識を高めるようにしてほしい。 ・漢字だけでなく、読書をするにも積極的に取り組ませてほしい。 																	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上を図り、継続的に学習できる検定の機会を確保する。 ・主体的に体験できる活動を取り入れた学習計画を立て、意欲的に学び、継続することで学力の定着と向上を図る。 																	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成23年度 アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活・特別活動	
重点課題	基本的な生活習慣の確立及びボランティア活動の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることの大切さについて、年々少しずつ理解され遅刻が減少する傾向にある。しかしながら依然と遅刻常習者が遅刻回数を増加させている。 ・地域と密着したボランティア活動として、本校の特色をいかした花プランター配置、雪吊り・雪囲い、薬剤散布等を行なっている。社会福祉施設での介護活動に携わる生徒も少しずつ増えているがもう少し参加者を増やしたい。空き缶拾いは、全体で参加し美化運動に関心を持った生徒が増えた。 	
達成目標	①年間遅刻回数（前年度比）	②ボランティア活動参加者数
	一人あたりの遅刻回数を2回以下にする 遅刻常習者の回数を半減させる。（前年度比）	5%増加（前年度比）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日を「無遅刻の日」と定め、家庭と連携を取りながら、遅刻防止指導を行う。 ・月に1度、遅刻・服装指導を実施する。また、学期始めに、遅刻指導週間をもうけ、遅刻防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒への呼びかけ・声かけ。 ・ボランティア活動掲示板の設置。 ・研修会への積極的参加。 ・地域と密着した環境美化整備活動の導入。
達成度	<p>平成22年度総遅刻数 157人 全校生徒 76人 (3/31現在) 一人あたり 約2.07回 昨年度同時期総遅刻数 151人 全校生徒 73人 (1/20現在) 一人あたり 約2.07回 今年度総遅刻数 152人 全校生徒 86人 (3・23現在) 一人あたり 約1.77回 昨年同期比でやや減少している。</p>	<p>平成22年度ボランティア活動参加者数 108名(73名) 今年度ボランティア活動参加者数 140名(107名)</p> <p>※()内は環境美化活動参加生徒数 昨年度より約30%増加</p>
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> (1) 夏・秋のさわやか運動を通して校門指導を行い、遅刻防止を呼びかける。 (2) 遅刻を繰り返す生徒に対する個別面談を実施する。 (3) 月始めに遅刻・服装指導を実施する。また、学期始めに、遅刻指導週間をもうけ、遅刻防止に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年3回小矢部市、砺波市の公共施設にプランターを配置する。 (2) 小矢部市内サマーボランティアスクールに参加する。 (3) 11月に清楽園での雪つり・雪囲いボランティア活動に参加する。 (4) 生徒会を中心に、全校生徒あげて地域の環境美化活動に取り組む。 (5) 東日本大震災募金活動（通年）
評 価	A 昨年度同期と比較して、一人あたりの遅刻回数はやや減少している。月初めの遅刻・服装指導や、学期始めの遅刻防止週間も、生徒の意識向上につながったように思われる。ただ同一人物が、遅刻を繰り返すことが多い。	A 環境美化活動については、本年度は2回実施したので参加者数が増えた。また、生徒会の自治委員を中心に自発的にボランティア（清楽園祭・東日本大震災募金活動など）に参加する生徒が増えた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻常習者は家庭環境や家庭での生活習慣に問題があり、家庭の理解と協力が無いと指導は難しい。 ・本校のボランティア活動は実習と関連しており、これが他校にない特色になっている。また、生徒の生活改善や自信に結びついていると思われる。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻を減少させる具体的な指導方法を模索するとともに、遅刻常習者への個別指導を徹底する。 ・挨拶が出来ない生徒が増えてきたので、普通に出来る生徒を育てる。 ・ボランティア活動については、生徒会自治委員を中心に、取り組みを活発にする。小さな活動でも出来ることから取り組み、積み重ねていくこと。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成23年度 アクションプラン — 3 —

重点項目	進路支援		
重点課題	進路意識の向上と進路実現に必要な学力の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路に対する意識が薄く、具体的な将来像が描けないため、目標設定が遅れる生徒がいる。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒や基本的な学習習慣が身につけていないため、進路実現に必要な学力や技能がつきにくい生徒がいる。 ・雇用情勢の悪化により、求人数が減少している。 		
達成目標	① 個人面接の実施回数 *生徒一人あたりの年間の回数とする。	② 進路希望実現率 *対象は進学及び就職を希望する者とする。	
	1・2年生 5回以上 3年生 10回以上	90%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面接の機会を増やし進路意識を高めると共に、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・基本的な学習習慣と、学力の向上に努めさせ、適切な進路選択を支援する。 ・事業所訪問、学校見学、進路学習会の機会を増やし、必要に応じて就業体験をさせ、具体的な進路先を考えさせる ・個別指導（面接、小論文、作文指導等）を徹底し、進路実現に向けた適切な指導をする。 		
達 成 度	1年次－ 6回 3年次－ 11回	2年次－ 11回 (100%)	進路希望実現率（100%）
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面接週間 1・2・3年次（4/25～4/28、10/3～10/7） ・進路面接・作文指導 3年次（7/5・12 7/21・22・27 8/24～26 9/1～6） 2年次（11/8・22 12/20） ・校長・教頭による個人面談 3年次（4/19～5/18） 2年次（6/29～7/22） 1年次（6/15～29） ・進路指導主事による個人面談 2年次（1/11～27） ・専攻科生徒による面接指導 3年次（7/28） 2年次（1/31） ・樹木医による進路講話 3年次（5/12） 2年次（5/11） 1年次（5/11） ・外部講師による進路学習会 2年次（3/5） 1年次（3/6） ・キャリア支援講座・労働法令説明会 3年次（2/7・27） ・定期考査後等の個人面接 1・2・3年次（6・9・12月） ・学校説明会（校外） 2・3年次（4/18） 1年次（6/13） 1・2年次（12/8） ・高校生就職ガイダンス 3年次（7/25） 2年次（3/26） ・就職希望者職場見学 3年次（1人3～4社）（教員企業訪問24社） ・進学希望者学校見学 3年次（1人2～3校） ・施設訪問 2年次（タキイ種苗研究農場・丸久小山園槇島工場） 1年次（北陸学院大学短期大学部・日の出屋製菓産業） 		
評 価	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導により、進路実現に向けたきめ細かな指導ができた。 ・生徒の進路希望先見学だけでなく、教員の事業所訪問や、就職支援アドバイザーとの連携を密にすることで、全員が希望する進路に進むことができた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科生は社会的キャリアもあり、本科生への面接指導は非常に効果的である。 ・生徒の自尊感情を高め、目的意識を持たせ、自分の言葉で話せるように指導を工夫してほしい。 		
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力や適性、進路希望を把握し、適切なサポートを行えるよう、これからも職員間の共通理解を図っていくこと。 ・生徒自身が自分を客観的に自己評価できるように工夫する必要がある。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成23年度 アクションプラン — 4 —

重点項目	学校生活	
重点課題	健康増進・環境美化、教育相談・特別支援教育の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な疾病や問題を持つ生徒がいるが、健康保持増進についての意識が低い。また、校内の環境美化が徹底されていない。 ・担任による面接や家庭訪問、関係教員による相談活動は行っているが、全教職員で対応する必要がある。また、悩みを相談できる機関や機会について、保護者の認識が低い。 	
達成目標	①生徒保健委員会の充実	②教育相談連絡会 職員研修及び保護者相談の実施
	年12回	年11回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に生徒保健委員会を実施し、委員会活動の見直しを行い、活動を充実させることにより、健康や環境美化に関する生徒の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な教育相談連絡会を実施し、教職員の共通理解を図る。 ・職員研修を実施し、教職員がカウンセリングマインドを身に付けるとともに、保護者対象の相談を実施し、生徒の問題解決に努める。
達成度	91.7% (11回実施)	109.1% (12回実施)
具体的な取組状況	<p>生徒保健委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 清掃点検表の貼り替えと点検 健康診断時の補助 学校行事における救護係 アロマセラピーの実施 (トイレの消臭スプレー、手洗い場のアロマバブルソープ、教室の抗ウイルスエアーリフレッシュナーなど) 保健室だよりの原稿作成 	<p>教育相談連絡会(職員)</p> <p>4/22、7/6、9/26、3/13 生徒の様子や指導上の問題点などについて協議 スクールカウンセラーによる教育相談 5/25、7/19、12/21、2/1 富山大学准教授 阿部美穂子 氏 保護者5名、生徒7名(のべ)実施 特別支援コーディネーターによる生徒の行動観察・訪問相談 4/27、5/23 となみ総合支援学校 新保晴江 教諭、棚田智秋 教諭 生徒対象の講話 7/11 携帯安全教室 NTTドコモ 山下由香里 氏 職員研修 12/5「特別支援を要する生徒、保護者へのかかわり方」 となみ総合支援学校 近江ひとみ教諭 棚田智秋教諭</p>
評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生徒保健委員会の活動が定着し、保健委員の健康に対する興味や意識が徐々に高まってきた。 ・清掃点検表の点検を行ったが、実施状況の確認や未記入箇所の連絡はできなかった。 ・インフルエンザ対策のアロマセラピーを実施した。 ・今後も継続し、内容を充実させたい。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談連絡会を継続し、職員の共通理解をはかった。 ・特別支援を必要とする生徒の把握や支援のために、外部機関との連携を図り、具体的助言を受けた。 ・定期的にカウンセリングを実施することで、生徒に相談することの重要性を徐々に意識付けられた。また、保護者の相談も増えた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりや不登校にはこれという方策はなく、家庭環境など背景が異なると指導方法はすべて異なると思う。まずは、親をリラックスさせ「焦らず、諦めず」見守ることが大切である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒保健委員会活動を通して、生徒の健康、環境美化意識の向上を図る。 ・特別な支援が必要な生徒の把握と情報の共有化、適切な指導のための研修の充実を図ること。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成23年度 アクションプラン — 5 —

重点項目	学習活動（専門教科）																																																													
重点課題	農業学習の意欲向上																																																													
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は資格・検定に興味・関心・意欲はあるが、徐々に薄れていく傾向にある。農業クラブ技術検定（中級・上級）、危険物取扱者試験（丙種、乙種第4類）、園芸装飾技能士（3級）造園技能士（3級）、農業技術検定（3級）、大型特殊免許（農耕用）、小型車両系建設機械運転資格等の受検・合格を通して自信を持たせ、教科学習の定着を図っている。 ・農業教科に興味・関心を持ってない生徒が少なからずいる。そのような生徒達に農業クラブ活動や県内外委託実習（インターンシップ）や現場学習に自主的・積極的に参加させることで、農業学習の意欲と就業意識を高めている。 																																																													
達成目標	①農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加	②県内外委託実習（インターンシップ）や農業関係の体験、現場見学の参加者を増やす。																																																												
	3年間で1人3種目以上	1, 2年次75%以上																																																												
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の必要性を説き、受験意欲を高め、受検者を増やす。 ・年間の資格・検定取得について示し、計画を立て学習させる。 ・教科内実習・農業クラブ活動・補習等と連動させて計画的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内実習や面談を通して生徒及び保護者に積極的に参加するよう促す。 ・新しい受け入れ先を確保する。 ・短期の体験や、見学先を増やし、体験できる環境を整える。 																																																												
達成度	25名中13名	134%																																																												
具体的な	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定合格者数</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○造園技能士(3級)</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>○農業クラブ技術検定</td> <td>111</td> <td>58</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>・農業簿記</td> <td>19</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>・農業機械</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>・ワープロ 中級</td> <td>31</td> <td>23</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>・ワープロ 上級</td> <td>14</td> <td>8</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>・生物工学 中級</td> <td>30</td> <td>13</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>・生物工学 上級</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>○小型車両系建設機械</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>○小型フォークリフト</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>○危険物取扱者</td> <td>69</td> <td>21</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・丙種</td> <td>37</td> <td>14</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>・乙種第4類</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>・乙種他</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <p>・受験者数189名合格者数88名(47%) ・卒業生の3種以上資格取得者13名 2種類資格取得者2名、1種類資格取得合格者8名、無資格者2名</p>	資格・検定合格者数	受験者数	合格者数	合格率	○造園技能士(3級)	4	4	100	○農業クラブ技術検定	111	58	52	・農業簿記	19	2	11	・農業機械	11	7	64	・ワープロ 中級	31	23	74	・ワープロ 上級	14	8	57	・生物工学 中級	30	13	43	・生物工学 上級	6	5	83	○小型車両系建設機械	3	3	100	○小型フォークリフト	2	2	100	○危険物取扱者	69	21	30	・丙種	37	14	38	・乙種第4類	24	4	17	・乙種他	8	3	38	<p>県内外委託実習参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内委託実習 7名 ・県外委託実習 9名 （1年次5名、2年次4名） <p>・農業関係の体験、現場見学の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年施設見学 31名 2年修学旅行 30名 就農青年育成懇談会 7名 <p>計83名</p>
資格・検定合格者数	受験者数	合格者数	合格率																																																											
○造園技能士(3級)	4	4	100																																																											
○農業クラブ技術検定	111	58	52																																																											
・農業簿記	19	2	11																																																											
・農業機械	11	7	64																																																											
・ワープロ 中級	31	23	74																																																											
・ワープロ 上級	14	8	57																																																											
・生物工学 中級	30	13	43																																																											
・生物工学 上級	6	5	83																																																											
○小型車両系建設機械	3	3	100																																																											
○小型フォークリフト	2	2	100																																																											
○危険物取扱者	69	21	30																																																											
・丙種	37	14	38																																																											
・乙種第4類	24	4	17																																																											
・乙種他	8	3	38																																																											
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・本年、検定受検者数が2.5%増加(前年151名受検)し、一人当たり2.2回受験した。資格取得意識の向上が見られ、興味関心が高まった。 ・検定合格率が前年を上回る予想がたち検定指導の成果が見られた。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ先の事情もあり委託先の確保が難しいが、参加者の目標意識はとても高い。 ・農業関係の体験、現場見学を意識した見学を組み入れられた。 																																																												
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得など目標に向かって努力する経験は実社会でも充分活かせると思う。 ・県内外委託実習は、生徒にとって良い機会である。これからも充実させてほしい。 																																																													
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き資格取得意識の向上と、合格のための指導体制の確立を図ること。 ・委託実習（インターンシップ）への関心を高め、自主的、積極的に参加するよう指導の工夫に努めること。 																																																													

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)